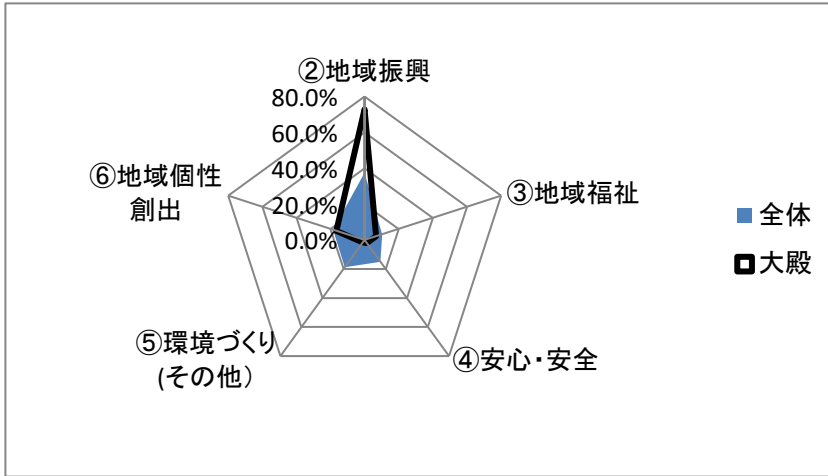


おおどのコミュニティ協議会 地域づくり交付金事業概要(令和2年度)

■地域の情報

地域人口	7,268人	自治会数	29
世帯数	3,321世帯	自治会加入率	89.2%

※数値は、令和3年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,948,000 円
交付金決算額	7,424,355 円
その他収入	1,416,755 円
交付金決算額／配分額	93.4%

各分野の決算

①協議会運営	5,738,343 円
②地域振興	2,260,665 円
③地域福祉	207,413 円
④安心・安全	64,950 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	54,117 円
⑥地域個性創出	515,622 円
決算総額	8,841,110 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

働くところがあり、心豊かに暮らし続けることができるまちづくり

■総括

第5期大殿地域づくり計画策定年次にあたり、コロナ禍での会議の持ち方を模索しながら協議を重ね、案を取りまとめることができた。

専門部会(あんぜん部会・やすらぎ部会・にぎわい部会)と運営委員会の位置づけとして、

- ・専門部会は、地域課題一つ一つの視点を明確にしてその解決策を協議、検討する。

- ・運営委員会は、地域内の連携強化のため「まず知り合うことから」というスタンスで協議を重ねている。

基本目標の「働くところがあり」に込めたやりがいやいきがいにつながるよう、地域住民に幅広い参加を促すタイムリーな情報発信に努めた。また、「チーム大殿」の視点で広報紙一元化を仮称でスタートさせた。広報紙の名称は広く地域から募集し、次年度から新しい名称で発行する運びとなった。紙面づくりにも地域の皆さんの声拾う取り組みを進めていきたい。

引き続き、地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらう、参加してもらう、参画してもらう、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討していきたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	・事務局人件費および事務費
② 地域振興	・地域情報の発信と広報活動事業 ・地域コミュニティ推進事業 ・地域行事の活動支援事業 ・助成金交付事業
③ 地域福祉	・三世代交流事業 ・健康づくり事業 ・おおどのたすけあいのまちづくり事業
④ 安心・安全	・大殿地区安心安全のつどい事業 ・地域見守り活動事業 ・自主防災活動推進事業 ・反射鏡設置事業
⑤ 環境づくり	・環境整備事業
⑥ 地域個性創出	・伝統文化の保存継承事業 ・体育振興事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	①地域情報の発信と広報活動事業 ②地域コミュニティ推進事業(つながり)	決算額	566,181円
	目的	①地域情報の共有や発信を進めていくため ②新たな人材の巻き込みや地域交流を通じて連携強化を図るため		
	実施内容	①ホームページの定期更新。広報紙一元化は地域情報おお！どの(仮称)でスタート ②研修事業の実施(庭木の学校6月中止、10月実施、消防出初式の視察研修1月中止)		
	実施時期	①令和2年4月～令和3年3月 ②令和2年10月17日		
	参加人数	①182人 ②136人		
	成果	①事業の告知・報告のほか、地域の各団体からの情報を発信できた。紙面を通じ、車座トークへの意見や広報紙名称募集など地域の皆さんの参画を促した。 ②研修事業では参加者の学習意欲やボランティア意識の把握ができた。10月に実施した庭木の学校ボランティア編ではセンター定期利用団体の清掃作業と同日実施ができた。		
	評価	①広報紙一元化は仮称でのスタートを切った。事業目的の共通理解にたつて年度ごとの「到達点」を明確にし、段階を踏んだ調整を進めていく必要がある。 ②新たな参加者を巻き込むための学校シリーズ(多様なメニュー)の検討や参加者同士の交流を深める工夫も必要		
今後に向けて	①地域の皆さんを巻き込んだ情報発信のありかたを引き続き検討していく。 ②引き続き、地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらう、参加してもらう、参画してもらう、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討していく。			
②	事業名	地域見守り活動事業	決算額	42,957円
	目的	地域ぐるみで見守り活動を推進していくため		
	実施内容	部会と大殿小PTAの共催で第3回見守り関係団体懇談会を開催		
	実施時期	部会協議: 令和2年11月5日		
	参加人数	52人		
	成果	17団体(新規4団体)24人が参加し、意見交換のテーマ「地域でゆるやかな見守りを拡げていくためのアイデア」や「見守りが必要な箇所」を地図に落とし込んで情報共有できた。懇談会の協議内容は広報紙やホームページで発信できた。		
	評価	参加団体が増えていることから見守り活動への期待は高まっている。		
今後に向けて	「チーム大殿」の視点での懇談会の継続実施。ゆるやかな見守りのルールづくりと実効確保のための協議を深めていきたい。			
③	事業名	伝統文化の保存継承事業	決算額	509,622円
	目的	地域の伝統文化(祭り)を通して地縁の強化を図るため		
	実施内容	地縁の復活をめざして取り組んでいることを実行委員会で共有し、コロナ禍にあってもできることとして、「お家で軒先ちょうちんを飾ろう」と呼びかけた。次年度に向けて竹の在庫チェック(11月)竹伐り作業(2月)を実施した。また、地域のお宝・魅力発信として「大殿界限今昔物語」冊子の活用について部会協議を行い、次年度事業のための教材として調達することを決定した。		
	実施時期	令和2年7月～令和3年2月		
	参加人数	310人		
	成果	ちょうちん事業では、軒先ちょうちん100セットの協賛をいただいたほか、飾った写真を送ってもらい、HPで軒先ちょうちんギャラリーとして発信することができた。また、マスコミ4社から取材を受け、テレビや新聞でも取り上げられ事業をアピールすることができた。 継続して協議してきた地域のお宝、魅力の発信のアイデア出しでは、冊子を活用した学習会やまちあるきを次年度からの事業計画とすることが部会協議でまとまった。		
	評価	コロナ禍にあってもできることをやろうという方針のもと、軒先ちょうちんを呼びかけ地域の皆さんの協力が得られた。また、地域のお宝・魅力を発信する事業(1年目は学習会、2年目はまちあるき)は地域の皆さんの参加が大いに期待される。		
今後に向けて	会員による事業運営から住民を巻き込んだ事業運営にシフトしていくという視点も入れた協議を深めるとともに、参加したくなる募集告知の打ち方も検討していきたい。			